

婦人の公共職業訓練生と意識

—神奈川県を例として—

相模原高等職業技術校 鎌田 智義
職業訓練大学校 田中 萬年

はじめに

近年の婦人（女子）の就労人口の増加は、労働力の需給関係に次第に大きな影響を及ぼし始めている。すなわち、この婦人労働人口の増加は、人口の高齢化および高学歴化の進行とともに、現下の労働問題の三大要素となってきたのである。

したがって、一昨年六月に制定された（第四次）「職業能力開発基本計画」においても、「企業内訓練」においては「女子労働者の職業能力開発の充実」を掲げており、また「公共訓練」においても次のような計画を掲げている。

「女子が多様な分野で、基礎的あるいは専門的な技能を身につけることができるよう、婦人就業援助施設によるものも含め、女子の職業能力開発の機会に努める。特に、育児を終えて再び労働市場に参入する女子に対する再参入に備えて必要な知識及び技能を習得するための訓練等の拡充に留意する。」

ところで、公共職業訓練では従来も婦人を対象とした訓練は実施してきた。その入校状況は表1のように全国的には養成訓練で一割強、能力再開発訓練で三割弱とまだ男性に比べると少ないものの、少しずつ増加の傾向にある。これに対し、神奈川県においては昭和六二年度の場合、養成訓練で三二・二%、能力再開発訓練で四五・三%と全国に比べ高い入校状況である。

しかし、前述のように、婦人の訓練が益々重要になってきたにもかかわらず、その実態についての研究はあまり進んでおらず、特に、婦人の訓練生がいかなる意識のもとに訓練を受講しているかについての報告はほとんどない。

そこで、婦人の訓練問題に関する関心が高まるなかで、今後の婦人を対象とした訓練の改善のための手がかりを得ることを目的として調査を実施した。

一 調査の方法

神奈川県下の婦人を主として訓練している訓練校の婦人の訓練生に対して、アンケート調査を実施した。調査校は横浜、小田原、紅葉ヶ丘の各高等職業技術校であり、調査時期は昭和六二年一月下旬である。受講者の受けている訓練期間は六カ月または一年である。

二 調査結果の概要

(一) 訓練生の所属

調査対象者の職系ごとの人数は表2のとおりであり、回答者の合計は二〇八名である。この表は、調査校における各職系の婦人の在籍者および調査対象者に占める職系ごとの比率、就業経験の有無別構成を表している。なお、各職系とも男女混合の訓練科であるため、訓練生の割合は一定でない。

この在籍者を少し詳しく見れば、表3のよ

うに既就業者でも三割弱が養成訓練に入っており、一方、未就業者の五割が能力再開発訓練に入っている。このことは、神奈川県においては「訓練の種類」を対象者によって特定していないため、既就業者・未就業者にかかわらず、自分の適性・進路を考慮し、修了後の就職に最も有利であると考えた科に入校した結果であるといえよう。

また、既就業者と未就業者とを比較すると、食品サービス系において前者は二五%、後者は八%であり、美容系において前者は五%、後者は二一%と特徴ある差異を示している。

(二) 訓練生の属性

年齢構成を見ると表4のように、三〇歳以下が全体の六〇%を占め、子育て後の婦人と考えられる四〇歳代以降の訓練生の割合は既就業者が約二六%で、未就業者の約一五%を上回っている。

学歴構成では、表5-1のように、高卒者が圧倒的に多く、全体の六七%を占めている。また、中学校卒業者は四〇歳代以上の年齢層に多い。このことは近年の高学歴化の影響の表れであるといえよう。

しかし、表5-2のように、未就業者の七七%が高校卒であるのに対し、既就業者は中学校卒三五%、短大卒以上三〇%と分化していることが特徴といえる。

配偶者については、表6のように全体の三割がいると答えているが、既就業者(三七%)

が未就業者(二二%)より高くなっている。

(三) 就業経験

就業経験の内容を見てみると、サラリーマン(八七%)として勤め(表7-1)、転職回数は一〜二回(四八%)あり(表7-2)、その一職場の平均勤続年数は五年未満(六八%)となつている(表7-3)。

なお、退職の理由は表8-1のように、九割が「自己都合」を掲げている。しかし、その内容は表8-2のように、「その他」が四割強を占め、明確ではないが同表に見るように配偶者がある訓練生の方がさらに高くなっているため、「結婚」による退職を窺わせている。また、その次には「時間的・肉体的に大変だった」が二割強と高くなっている。このような結果は、高校卒業後何らかの職業に就職した者が職業選択を誤ったか、あるいは結婚後いったん会社をやめ再就職を図る者が、新たな職域の拡大を図るために入校してきたものと思われる。

(四) 情報経路

訓練校入校のきっかけとなった職業訓練校の情報入手先は、表9のように、「安定所(二二%)、知人・友人(二二%)、新聞・ポスター・テレビ等(一七%)、家族や親類(一五%)の順となつている。

これを就業経験別に見ると、既就業者で高いのは「安定所」三二%、未就業者で高いのは「家族や親類」二二%である。両者とも高いのは「知人・友人」二二%であり、「口コミ」による宣伝が大きな威力を発揮していることが窺われる。

(五) 入校動機

入校動機は表10-1のように、「手に職をつけるため」(八三%)、「将来に備えて」(七八%)、「就職の斡旋を期待して」(五六%)となつている。なお、既就業者では「転職希望」が六割近くもいることが特徴である。

これを年齢別に見ると、表10-2のように高齢者は「もう一度勉強したい」、「転職を有利に」したいとしており、若年者は「手に職をつけるため」(八四%)、「将来に備えて」(八〇%)、「就職の斡旋を期待して」(五八%)が高くなっていることが特徴である。

(六) 訓練内容

教育訓練の内容に関しては表11のように、「希望通り」の訓練科に入校しており(八六%)、また表12のように、学科・実技ともに八割以上の賛同を得ている。このことは、神奈川県において実施している地域の特性を生かした「単位制」訓練カリキュラムが、入校生に支持されていることを示しているといえよう。

しかし、「一日の訓練の時間」について、未就業者は表13のように五割強の訓練生が「長い」と答えており、これらの入校生には訓練

校の「学校」感覚が定着しつつあるとも考えられる。

なお、全体的に訓練内容に対しては満足しているものの、表14のように、「希望どおりでない」と答えた未就業者の六割強が「近くに希望する科目、コースがなかったから」と答えており、訓練の実施上注意を要する点であろう。

(七) 訓練校生活

訓練校における交友関係は表15のように、多くの訓練生が「親しい友人がいる」(三二%)、「多くの人と知りあえた」(六五%)と答えており、特に若い訓練生ほど「親しい友人」に恵まれている。これらから訓練校においての人間関係は比較的良く、訓練校生活を楽しく受けられたことと考えられる。しかし反面、少数ではある(一・四%)が、「友人が出来ず寂しい」思いをしている訓練生もあり、訓練生指導上に配慮を要する点である。

(八) 職業資格

職業資格は表16―1のように、入校前に取得している者が六割弱いる。その取得数は表16―2のように、一、二種類取得している者が五割強いるが、これは自動車(バイクを含む)の免許を含んでいるためで、運転免許を除いた職業資格取得者はより少ないと思われる。また、入校後の資格取得については関心が高く、表17のようにできるだけ多くの資格

を取得し、有利に就職したい(六〇%)とされている。その目的を年代別に見てみると、表18のように、一〇代では「仕事に自信が持てる」、二〇代では「実力を認められる」、三〇代では「安定した身分」、「高賃金企業への就職」、四〇代では「就職の範囲拡大」と答えており、年代別に差異が認められる。このように年代別に資格取得の目的は異なるが、訓練期間中に訓練生が希望する資格取得を援助することはきわめて重要なことであるといえる。

(九) 就職の意図

就職の意図は表19のように、「早く収入を得たい」(四〇%)の割合が全体として高くなっている。また、既就業者はそのほかに「生活に困るから」とし、経済的安定を図る希望を表している。また、未就業者は「知識・技能を生かしたい」という意図を表している。

就職の形態では表20―1のように、六二%の訓練生が雇用者希望であるが、「いずれ独立したい」との希望も高くなっている。これは訓練種目により異なり、表20―2のように、美容系では「いずれ独立したい」が高く、「パート・アルバイトで勤めたい」は福祉・食品系が高くなっている。このように、就職の形態は訓練生が学んでいる職種の種類により異なることが極めて明確に表れているといえる。

また、職業選択の基準では表21のように、全体としては「通勤に便利」で、「自分の技術・技能が生かせる」職場が基準となっている。



しかしこれは就業経験の有無により差異があり、既就業者では「収入の多いこと」が未就業者より高く表れていることが特徴的である。

なお、就職活動については、表22のように五二%の訓練生が「これから」と答えており、調査時点で内定している者は少ない。内定者を訓練の種類別に見てみると、表23のように養成訓練の三二%が決まっており、能力再開発訓練よりもきわめて高くなっている。また表24のように、配偶者のいない者が求職活動を積極的に行っている。

しかし、神奈川県における訓練校修了予定者のなかの就職希望者の就職状況は、近年一〇〇%であり、この結果は本調査の調査時期に関係しているものと思われる。

表3 就業経験の有無別調査者率(%)

区 分		既就業者	未就業者	全体
訓練種別	養成訓練	27.8	50.0	38.6
	能力再開発訓練	72.2	50.0	61.4
職系	ビジネス実務系	34.8	48.8	40.1
	福祉サービス系	21.7	17.4	19.8
	食品サービス系	25.2	8.1	17.4
	美容系	5.2	20.9	13.0
	印刷デザイン系	13.0	4.7	9.7

表4 就業経験の有無別、年齢別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
20歳以下	4.3	65.1	31.4
30歳以下	42.6	10.5	28.5
40歳以下	27.0	9.3	18.8
50歳以下	22.6	11.6	17.9
60歳以下	3.5	3.5	3.4

表5-1 年齢別、学歴別構成(%)

区 分	~20歳	~30歳	~40歳	~50歳	全体
中学卒または高校中退	7.7	3.4	5.1	18.9	8.7
高校卒または短大(大学)中退	89.2	61.0	53.8	51.4	67.1
短大卒	-	27.1	15.4	18.9	14.0
大学卒	-	1.7	23.1	5.4	5.8
その他	3.1	5.1	2.6	5.4	3.9

表1 公共職業訓練に占める
婦人(女子)訓練生の比率(%)

年度(昭和)	53	54	55	56
能力再開発訓練	25.7	25.8	28.9	28.7
養成訓練	9.2	9.7	11.0	12.2

(出典) 森英良『職業訓練の現状と課題』昭和57年より

表2 職系別、就業経験別回答者数構成

区 分		人数(人)	比率(%)
職系	ビジネス系	83	39.9
	福祉系	41	19.7
	食品系	37	17.8
	美容系	27	13.0
	印刷系	20	9.6
就業	既就業者	115	55.3
	未就業者	86	41.3

三 調査の結論

本調査はきわめて初歩的なしかも限定的なものであるが、以上のような調査結果から、以下のような結論を指摘できるのではないかと考える。

- ① 婦人の公共職業訓練生は、年齢、学歴、配偶者の有無、就業経験の有無等きわめて多様な婦人により構成されている。
- ② したがって、その意識もさらに多様であるが、属性ごとのグループにより特徴ある傾向を示している。
- ③ 公共職業訓練校の教育・訓練は、訓練生に高い支持を受けている。
- ④ 就業意欲は配偶者の有無により差異があり、配偶者がいない婦人の方が求職活動を積極的に行っている。

四 今後の課題

- 今後の婦人を対象とした訓練の拡充をめざして、今回の調査結果をさらに確実なものにするため調査を継続し、婦人の訓練生に関するデータを量的にも、質的にも高めなければならない。また、そのほかに、特に以下のよう調査をも考慮する必要があると考える。
- ① 入校応募時における応募者の意識を分析する必要がある。
 - ② 訓練校修了後の追跡調査が必要である。
 - ③ 上記に関し、婦人は男性といかなる点が異なるのか等の比較分析が必要である。

表8-1 退職の理由別構成(%)

自己都合による	89.7
会社都合による	8.6

表7-3 平均勤続年数別構成(%)

5年未満	67.8
10年未満	25.2
11年以上	5.2

表5-2 就業経験別, 学歴別構成(%)

区 分	既就業者 未就業者	
	中学卒または高校中退	34.8
高校卒または短大(大学)中退	21.7	76.7
短大卒	25.2	5.8
大学卒	5.2	4.7
その他	13.0	3.5

表8-2 自己都合による退職の理由別構成(%)

区 分	夫あり 夫なし 全体		
	一時的で不安定な仕事だったから	7.9	13.6
時間的、肉体的に大変だったから	23.7	21.2	22.1
収入が少なかったから	—	7.6	4.8
配転を命ぜられたから	2.6	1.5	1.9
対人関係がうまくいかなかったから	—	4.5	2.9
自分の能力を発揮出来なかったから	10.5	12.1	11.5
その他	52.6	37.9	43.3

表6 配偶者の有無別構成(%)

区 分	既就業者 未就業者 全体		
	いる	37.4	20.9
いない	62.6	79.1	70.5

表7-2 転職回数別構成(%)

1回ある	29.6
2回ある	18.3
3回ある	4.8
4回以上ある	7.8

表7-1 就業の形態別構成(%)

雇用人(サラリーマン)	87.2
自営	2.6
家業手伝い	1.7
その他	8.7

表9 職業訓練校の情報入手経路別構成(%)

区 分	既就業者 未就業者 全体		
	公共職業安定所	32.2	9.3
公共の施設で(行政センター)	4.3	3.5	3.9
会社の同僚・上役から	2.6	1.2	1.9
家族や親類から	8.7	22.1	14.5
知人・友人から	23.5	22.1	22.2
職業訓練校の修了者から	4.3	2.3	3.9
新聞・ポスター・テレビ等の広告で	19.1	14.0	16.9
学校の先生から	—	15.1	7.2
その他	4.3	8.1	5.8

表10-1 教育・訓練の受講動機別, 就業経験別構成(複数回答)(%)

区 分	既就業者 未就業者 全体		
	就職の世話をしてくれると思ったから	54.8	58.1
すぐ就職出来ると思ったから	20.9	32.6	26.0
賃金の高い企業に就職出来ると思ったから	19.1	14.0	16.8
雇用保険を延長してもらえるから	17.4	2.3	10.6
今までと違った仕事をしてみたかったから	59.1	16.3	39.4
独立自営をしたいと思ったから	10.4	14.0	12.5
将来に備えて得だと思ったから	77.4	80.2	78.4
もう1度勉強したいと思ったから	55.7	41.9	49.0
手に職をつけたいと思ったから	83.5	83.7	83.7
その他	11.3	23.3	16.3

表10-2 教育・訓練の受講動機別，年齢別構成(複数回答)(%)

区 分	~20歳	~30歳	~40歳	~50歳
就職の世話をしてくれると思ったから	70.8	55.9	59.0	35.1
すぐ就職出来ると思ったから	38.5	20.3	18.0	27.0
賃金の高い企業に就職出来ると思ったから	15.4	22.0	20.5	10.8
雇用保険を延長してもらえるから	1.5	22.0	15.4	5.4
今までと違った仕事をしてみたかったから	13.9	57.6	41.0	54.1
独立自営をしたいと思ったから	16.9	10.2	15.4	8.1
将来に備えて得だと思ったから	89.2	81.4	79.5	67.6
もう1度勉強したいと思ったから	27.2	54.2	53.9	73.0
手に職をつけたいと思ったから	93.9	84.8	87.2	67.6
その他	23.1	13.6	15.4	10.8

表16-1 職業資格の取得別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
取得している	60.9	53.5	56.5
持っていない	39.1	46.5	43.5

表16-2 職業資格の取得数別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
1種類	30.0	30.4	29.9
2種類	32.9	13.0	24.8
3種類	17.1	15.2	16.2
4種類	8.6	19.6	13.7
5種類以上	11.4	21.7	15.4

表17 職業訓練校での職業資格取得の意思別構成(%)

取れるものは全部取得したい	60.4
必要なものだけ取得したい	27.5
取得したい職業資格が取れないので他でとる	8.2
取得するつもりはない	2.9

表18 職業資格の評価別構成(3肢選択)(%)

区 分	~20歳	~30歳	~40歳	~50歳
就職の選択範囲が拡大する	33.9	45.8	46.2	51.4
早く就職できる	21.5	22.0	15.4	18.9
安定した身分で就職できる	60.0	39.0	74.4	62.2
賃金の高い会社に就職できる	16.9	20.3	38.5	8.1
独立自営に役立つ	10.8	23.7	18.0	16.2
仕事に自身が持てる	73.9	50.9	53.9	59.5
仕事にハリが持てる	29.2	25.4	18.0	29.7
職場の仲間にヒケメを感じないですむ	9.2	5.1	2.6	—
知人、友人に誇りを持てる	7.7	8.5	—	—
実力を会社に認められる	18.5	30.5	18.0	16.2
その他	16.9	10.2	2.6	2.6

表12

訓練内容の難易別構成(%)

学 科	易しすぎる	適当である	難しすぎる
易しすぎる	7.2		
適当である	83.1		
難しすぎる	7.2		
実 技	易しすぎる	適当である	難しすぎる
易しすぎる	10.6		
適当である	80.7		
難しすぎる	6.8		

表11

在籍訓練科の希望別構成(%)

希望通り	86.0
希望通りでない	13.0

表13 訓練時間の長短別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
長いと思う	33.0	52.3	41.1
適当である	63.5	47.7	57.0
短いと思う	3.5	—	1.9

表14 希望通りでない在籍者の理由別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
近くに希望する科目、コースがなかったから	26.7	63.6	40.7
希望コースを受験したが合格しなかったから	13.3	18.2	14.8
先生・知人・親類等にすすめられたから	13.3	—	11.1
その他	40.0	18.2	29.6

表15 友人関係の親密度別，年齢別構成(%)

区 分	~20歳	~30歳	~40歳	~50歳	全体
親しい友人が出来た	44.6	32.2	23.1	18.9	31.9
多くの人と知りあえた	53.8	64.4	71.8	75.7	64.7
友人が出来ず寂しい	1.5	3.4	—	—	1.4

表23 就職内定別構成(%)

区 分	養成訓練	能開訓練
既に内定している	31.3	7.1
まだ内定していない	68.8	92.9

表24 求職の活動別構成(%)

区 分	夫あり	夫なし
企業に応募したことがある	13.1	31.5
応募したことはない	8.2	4.8
希望の企業がない	3.3	6.2
これから活動する	63.9	47.3
就職する気はない	—	—
その他	4.9	9.6

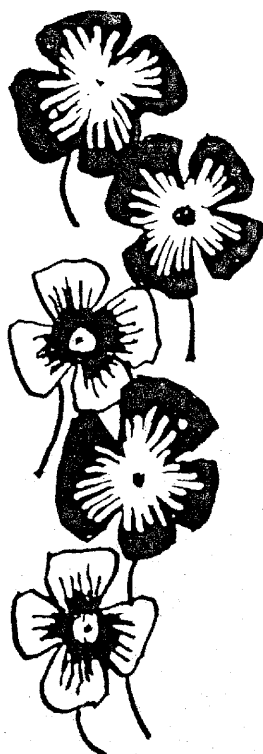


表19 就職の理由別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
生活に困るから	27.8	5.8	17.9
早く収入を得たいから	33.0	51.2	40.1
働くことが好きだから	13.9	2.3	9.2
知識・技能を生かしたいから	13.9	26.7	20.3
健康に良いから	1.7	2.3	1.9
その他	7.8	11.6	9.7

表20-1 就職の希望形態別, 就業経験別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
雇われて働きたい	62.6	61.6	62.3
独立自営したい	—	2.3	1.0
初めは雇われ、いずれ独立自営したい	27.8	25.6	27.1
家庭で内職したい	0.9	—	0.5
パート、アルバイトで勤めたい	5.2	7.0	5.8
その他	3.5	3.5	3.4

表20-2 就職の希望形態別, 在校職系別構成(%)

区 分	ビジネス	福祉系	食品系	美容系	印刷系
雇われて働きたい	83.1	65.9	41.7	25.9	55.0
独立自営したい	—	—	5.6	—	—
初めは雇われ、いずれ独立自営したい	13.3	7.3	38.9	74.1	40.0
家庭で内職したい	1.2	—	—	—	—
パート、アルバイトで勤めたい	—	17.1	11.1	—	5.0
その他	2.4	9.8	2.8	—	—

表21 職業選択の基準別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
労働時間の短いこと(休日の多いことを含む)	9.6	18.6	13.5
収入の多いこと	23.5	12.8	18.8
肉体的に楽なこと	2.6	3.5	2.9
通勤が楽なこと(自宅から近い、交通が便利等)	31.3	26.7	28.5
自分の技術・技能が生かせること	22.6	27.9	26.1
福利・厚生が良いこと	7.0	4.7	5.8
その他	2.6	5.8	3.9

表22 就職活動の取組み別構成(%)

区 分	既就業者	未就業者	全体
企業に応募したことがある	27.0	24.4	26.1
応募したことはない	2.6	8.1	5.8
希望の企業がない	6.1	4.7	5.3
これから活動する	55.7	48.8	52.2
その他	5.2	12.8	8.2